北海道医歌人会詠草

セネッセンス

釧路　児玉（こだま）　昌彦（まさひこ）

いつまでも女性の前では若きまま男であること疑わざりしが
若きらの早口言葉聞き取れず　いつか異国の孤老となれり
二度　三度　確かにここだと経巡（へめぐ）れど目的の場所容易ならざる
山歩きの先達者もまた足を病み　心も病みて入所の運命（さだめ）
衰えの重なり見えし我がからだ　なお歩むべき道を見すえぬ

選挙（三）

北広島　古屋雅三知（ふるやまさみち）

勢いは野党に有りとの下馬評に　開票結果も寸分違（たが）わず
連休で投票率も　中日（なかび）なれば　上がらぬ筈との思惑外れ
政権の死命を制す過半数　敢えなく割りて辞任やむなし
現代の流行（はやり）なりしや　ポピュリズム　不平不満を糧（かて）に伸び行く
多極化は時代の潮流（ながれ）となりしゆえ時局の行方は混沌とせり

朝の稲妻

函館　水関（みずせき）　清（きよし）

団栗の帽子は靴か　シンデレラ　王子さま待つ森へと転がる
愉しみは　テントを張りて靴を脱ぎ　銀河仰ぎて食べるおむすび
朝陽射す　野菜サラダにドレッシング　目覚め促す野営の稲妻
「あっ海！」と声が響けば　峠道　空へ飛び立つ滑走路となる
たっぷりのポプラの綿毛　風に乗り　我らの明日（あす）を淡く照らしぬ

お掃除ロボット

士別　竹内（たけうち）　幹夫（みきお）

暗闇に点滅しつつ時待てば充電叶ひぬ今は掃き出でな
素戔嗚（すさのお）を気取りてコードと闘へどタンクの水には酔ふこともなし
纏はられ振り切りてのちも床を這ふコードに捕はる遺難哀しも
幾部屋を掃き拭き行けどーCの潰えむ刻（とき）ぞけふも稼働す
掃き行けど拭き行けどなほ我が業の尽くること無し程序（アプリ）恨みぬ

当世順化

滝川　村田（むらた）　英俊（ひでとし）

「アンケート調査」は「ちょうさちょうさ」なり　ああ民謡の合いの手のよう
感動は与えるものか？されるのはさせるつもりで頑張るからか
髪を染めスマホ片手に歩く君せめてウインカーを設置してくれ
頂上に再挑戦するは「リベンジ」か山に復讐してどないする
流行は下に子の字の付かない名きらめいても読みやすければいい

シナガワハギ

札幌　浜島（はまじま）　泉（いずみ）

黄と白のシナガワハギが咲く道を日課の散歩　日照りの夏日
ゴミ埋めの種より生ひしカボチャの芽　稔る願はず花をば賞でむ
白蝶（しろてふ）が生命（いのち）の業（わざ）を終ふるとき　野菊の茎がその場を与ふ
散歩道名残の雪に　キツツキが啄（ついば）み剥（は）ぎしシラカバ木くず
育みし草木が花実むすぶ時　視覚失せつばいかで愛（め）づらむ